



【様式1】

夏期観測 2019 研究速報(プロジェクト報告書)

1.氏名

(和文) 加藤俊吾/首都大学東京

(英文)

2.所属

(和文)

(英文)

3.共同研究者氏名・所属

(和文) Chang-Feng Ou-Yang/台湾国立中央大学 島田幸治郎/早稲田大学

(英文) Chang-Feng Ou-Yang/National Central University Kojiro Shimada/Waseda University

4.研究テーマ

(和文) キャビティリングダウン分光法を用いたガスの自動連続測定

(英文) Automatic continuous measurement of gas using cavity ring down spectroscopy

5.研究結果(プロジェクト報告)の概要

(和文) PICCARO 社のキャビティリングダウン分光法による測定装置を用いて、温室効果ガスである二酸化炭素 (CO₂) とメタンガス (CH₄) を自動連続観測を行った。富士山のような高々度で初めて観測を行ったので、当初、測定装置のトラブルを心配していたが、停電後にも自動的に普及し装置の稼働状況は問題がなかった。現在、停電時による観測データの不具合の精査および通常時のデータの機器の精査を行っている。さらに、加藤俊吾准教授が観測したオゾンと一酸化炭素のデータと比較しデータの精査を行った後に、データ解析に着手する。

(英文) * 必須ではないが英文 HP に掲載するためなるべく記入ください。